

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU部会 電気通信システム委員会(第17回) 議事概要

1 開催日時及び場所

令和4年4月15日(金) 15:00~15:45

於、オンライン会議(Webex)

2 出席者(敬称略)

(1)委員等

主 査:丹 康雄

主査代理:前田 洋一

専門委員:浅井 光太郎、植松 友彦、岡村 治男、笠井 康子、劔吉 薫、後藤 良則、
高田 芽衣、永沼 美保、長谷川 一知、日高 邦彦、宮地 悟史、本永 和広、
森田 純恵、山條 朋子、山本 秀樹、横田 大輔

(2)総務省(事務局)

山口 典史(通信規格課長)、重野 誉敬(通信規格課国際情報分析官)、
長屋 嘉明(通信規格課標準化推進官)、山口 大輔(通信規格課専門職)他

3 議題

(1) ITU 世界電気通信標準化総会(WTSA-20)の結果について

(2) その他

4 配付資料

資料 17-1 ITU 世界電気通信標準化総会(WTSA-20)の結果概要

参考資料 1 ITU 部会 電気通信システム委員会 構成員一覧

5 議事

開会に先立って事務局(通信規格課)の山口課長から挨拶を行い、Beyond 5G 時代に向けた知財・標準化戦略の方向性について口頭で説明を行った。

(1)電気通信標準化総会(WTSA-20)について

資料 17-1 に基づき WTSA-20 の結果について事務局から説明を行った。主な質疑・意見は以下のとおり。

鈕吉専門委員：

資料 7 ページの「決議案の議論の結果」について、決議 96 等は含まれていない理由如何。

事務局

今回 WTSA で変更無しとなった決議については本資料の表に掲載していない。

本永専門委員

資料 14 ページの決議 98 について、U4SSC の KPI を引用し、その実装を促進することはとてもよいことであるが、実際かなりの数の KPI が記載されていることから、かなりの工数と費用がかかると思われる。実際に KPI を適用するにあたっての工数等の評価についての支援の話題は議論があったのだろうか。

事務局

途上国に対して実装するための支援については議論されているが、先進国やその他の国に対して支援を行うという話にはなっていない状況。具体的な支援というよりは、ベストプラクティスをどのように共有していくかという点が、今後の課題として今回議論されていた。

前田主査代理

今回の WTSA-20 は、新型コロナウイルス感染症の影響が依然として残っている中の海外出張であり、大変な緊張感を伴ったものであった。現地対応をいただいた方はもちろんのこと、時差のある中で日本からリモート対応いただいた方にもメンバーとしてお礼申し上げたい。

現地で感じたことからいくつか申し上げますと、まず、日本から見て今後標準化を国際的に対応していくにあたり、これまでは欧米中心の議論というのが前提にある一方で、アジア地域の中でも日中韓の三つ巴でバランスをとりながら、欧米との対応を行うという構造であった。今回はそれに加えてインドが非常に影響力を示すような主張を行い、役職の獲得にも熱心であった。インド政府は次回の WTSA-24 の開催国に立候補しており、役職者維持も含めて ITU での活動に重点を置いていることが現地で感じられた。今後日本としては APT という枠組みを活用し、日中韓にインドを加えた連携も今後新しく考慮するポイントになると考えている。

今後の標準を推進して行くに当たって、日本はあくまでも技術力を中心とした標準化への貢献が重要という認識であり、技術論が最後は影響を及ぼす。したがって、これまでの日本が行ってきた「技術中心」の標準化活動は今後も進めていくべきである。

標準化を上手く進めるという点では SG 議長・副議長やラポータといった技術的リーダーシップを発揮できる役職を日本が維持することで、ITU での議論を円滑に進めることができると思

っている。今回合会で新たに選出された SG 議長・副議長をはじめ、非常なパワフルな体制になったと思う。皆様方の引き続きのご支援の下で、活発な議論が継続されることを祈っている。

丹主査

インドについては、クアッドという枠組みでも寄書数や参加者数の勢力分布が違って見えてくるという議論があり、インドとの付き合いはこれから一つのポイントになると感じている。

浅井専門委員

資料 8 ページ目に記載がある決議 99 の SG 再編について、TSAG のアクションプランはそのまま進めるが、その通り実施されるとは限らないという意味合いがあるのか。

事務局

ご指摘の通り、TSAG の議論を認識し踏まえた上で進めていくが、その通りに実施される義務はないとされている。今後の TSAG をはじめとした活動の中で、今後より具体的なものが見えてくるのだと思う。

永沼専門委員

この数年間議論してきた SG 再編の議論については、次の WTSA-24 までの間でもう一度盛り上がってくることになる。前会期の TSAG で作成したアクションプランの位置づけを明確化したいというアメリカの強い意志がある。一方で、そこで決めたことを全てマニフェストにされてしまうということに警戒はあった。基本的に今後 2 年半で SG 再編の議論を行うバックアップをするための決議という位置づけになっている。おそらく次回の WTSA で SG 再編の議論と一緒に本決議の改定等が議論されると思われる。

(2) その他

事務局から、次回委員会は 11 月頃を予定している旨連絡を行った。

以上